

## 『第6回 ISOシステムの導入費用(コスト)』

(株)環境セキュリティ・システム研究所 代表取締役 米ヶ田 健司

ISOの導入・取得コストといっても、一概にいくらというのは不可能です。

「人的」・「時間的」・「金銭的」コストがあり、それぞれに相関関係がありますから、どれかを節約しようと思えば別の要素が高くなることも予想されます。ここでは、「金銭的」コストについてのみ触れさせていただきます。

①規模の大小、②業務の複雑さや環境負荷の程度などの置かれた状況、③コンサルタントの必要性、④内部専担者の有無、⑤文書化の精緻度、⑥期間などの主体的状況、さらに、⑥システムを導入するだけなのか、第三者認証取得(審査登録)するのか、などにより大きくそのコストは違ってきます。

### 審査費用:

小規模な企業・組織であっても、認証取得まで行うのであれば、審査費用だけで初年度、**最低50万円程度**(その後は、毎年15~20万円)はかかると考えておくべきでしょう。規模が大きくなれば順次高くなっていきます。

### コンサルタント費用:

最も外部への支払い費用が大きく変わりうる要因は、専門のコンサルタント費用です。

コンサルタントを利用しなければ、確かに外部への支払い費用は減ります。しかし一方で、組織内に専門のスタッフを養成する費用、また導入するための時間が大幅に伸びたり(例えば:コンサルタントがいれば1年でできたところが、2~3年かかったり)といった内部コスト(時間・工数)の大幅増ともなりかねません。

コンサルタントの利用は、考え方によりますが、少なくとも「現状分析・初期調査」段階までは、方向性を間違わないためにも専門のコンサルタントの意見を聴くことが効果的だといえます。但し、コンサルタントのやり方、質及び料金は様々で、例えば料金では認証取得までの責任コンサルで、**100万円**というところもあれば、**800万円**というところもある状況です。最近では、複数の企業を集めてコンサルすることで、1社あたりのコンサル料金を低く抑えるやり方なども実施されています。

### 運用コスト:

もっとも高くつく可能性があるのが運用コストです。

ISOのシステムは、導入すれば終わりではなく、むしろ認証取得してからがスタートです。維持運用し、継続的に改善していかなければなりません。自分の会社に合わない仕組み・過大な文書化(マニュアル)をしてしまい苦勞(全社員の時間的・労力的コストが関わる)している会社も多くあります。

よい指導者やコンサルタントに巡り会えるかは、大きな要素かもしれません。